

鹿沼市産業経済未来創造懇談会 、第3回 / 『かぬまエコノミーティング』

2025 10/17 日 13:30～ 栗野商工会

I 市長あいさつ

II 自己紹介

III 第3回会議について

IV ミーティング

テーマ：協働・共創による新たな産業・経済振興策について

「いちご市パワーアップ事業（「Made in 鹿沼」の推進）」 and

みんなで進める「移住・定住」促進作戦 をベースに

V 参考資料：設置の目的と実施方法

鹿沼市産業経済未来創造懇談会設置要綱について

VI その他



▼ミーティングメンバー

(順不同 敬称略)

団体名	役職名	氏 名	備 考
鹿沼商工会議所	副会頭	設樂 光江	
	女性会会長	瀬谷 一世	
栗野商工会	会長	井戸 道廣	
	会員	関口 弘	株式会社栃毛木材 工業代表取締役
	理事／女性部部长	若林 ふみ子	
上都賀農業協同組合	代表理事組合長	青木 孝雄	
鹿沼市森林組合	代表理事組合長	渡辺 保	
	総務課課長補佐	岡部 真一	
栗野森林組合	代表理事組合長	神山 義一	
	総務課主任主事	伊澤 文	
鹿沼相互信用金庫本部	執行役員 業務統括部長	持丸 正吾	
	業務統括部副部長	福田 大輔	
足利銀行鹿沼支店	支店長	黒崎 雄一郎	
栃木銀行鹿沼支店	支店長	伊部 貴士	
鹿沼ケーブルテレビ(株)	取締役統括本部長	野口 重彦	ファシリテーター
鹿沼市	市長	松井 正一	
	副市長	福田 義一	

事務局
鹿沼市経済部産業振興課産業振興係
☎0289-63-2196
E-mail: sangyou@city.kanuma.lg.jp

Ⅲ 第3回会議について

- ▷ エコノミーティングは、令和7年度は3回の開催を予定。
- ▷ 開催に先立ち、令和7年2月17日にキックオフミーティングを実施。
「鹿沼のまちづくりの課題」をテーマに意見交換。
- ▷ 活発な意見を集約した結果、1回目の会議のテーマを『「Made in 鹿沼」のまちづくり～各分野における鹿沼自慢など～』として開催。
- ▷ ミーティング自体は大いに盛り上がったが、参加者がすべて男性であったことから、2回目も同じテーマとし、女性中心のメンバーで実施。
- ▷ 2回目の会議では、まずは、1回目に出された意見を深掘し、続いて個人の意見を積極的に発言。女性ならではの視点で様々な提案を受けることとなった。
- ▷ 過去2回のミーティングの意見を詳細に分析したところ、多くの意見が「いちご市」と「移住・定住」という2つのキーワードに集約されることとなった。
- ▷ 今回の第3回ミーティングは今年度最後であり、また、今年度は次期総合計画策定年度であることから、「協働・共創」を旗頭にスタートしたエコノミーティングでの意見を、総合計画に反映させるべく、集大成として整理していく。
- ▷ これまでのミーティングとの整合性を図るため、「いちご市」と「移住・定住」に関する意見を基本ベースとして取り扱うこととする。

▶ と… いうわけで・・・今回のミーティングのテーマは

協働・共創による新たな産業・経済振興策について

「いちご市パワーアップ事業（「Made in 鹿沼」の推進）」and
みんなで進める「移住・定住」促進作戦 をベースに

としました。



IV ミーティング

- ◎本市では現在、次期総合計画の策定を進めています。
- ◎今回、令和7年度最後となる第3回ミーティングにおいて、産業界、金融界、行政が連携し、「Made in 鹿沼」をキーワードに「協働・共創による新たな産業・経済振興策」の発案を目指して、様々なご意見、アイディアをお願いします。
- ◎過去のミーティングにおいて、特に意見の多かった2つの事業を議論のベースとしてご用意しました。

■「いちご市鹿沼」とは …

- ◎人口減少が進んでいく中でも、都市間競争はますます厳しさを増しており、地方自治体は生き残りをかけて地域の特色を前面に出し、「選ばれる自治体」を目指して、それぞれが地域振興策を推進しています。
- ◎豊かな自然や伝統文化、産業など資源が豊富な本市は、それゆえにイメージが分散してしまう傾向がありました。そのため、シティプロモーションの一環として、対外的に打ち出す本市のイメージを絞り込み、そのイメージに沿った事業を展開することとしました。

1. 「いちご市鹿沼」

- ▷栃木県は作付面積、収穫量、産出額などが全国一の「いちご王国」であり、その中でも本市は、3～4番手の市である。
- ▷しかし、その歴史は古く、またその質は「日本一」との市場評価を得ることも多く、市民からも、鹿沼市のイメージは「いちご」という意見が多い。
- ▷これまで進めてきたシンボルキャラクター「ベリーちゃん」との整合性も取れ、市民にも認知度が高く、また全国的にも伝わりやすいことから、「いちご市」をまちづくりのメインイメージにすることとした。

2. いちご市宣言

平成28年11月26日 鹿沼市は「いちご市」を宣言（来年は宣言10周年）

3. これまでの主な取り組み

平成28年11月26日 「いちご市」宣言

いちご市ロゴマークの制作、「市の果実」制定

平成30年

「いちごのもり」開催、いちご屋台、いちご神輿、
鹿沼商工高生による「いちご焼き」

令和元年

鹿沼商工高生が「青春いちごまんじゅう」開発

令和5年

「いちごの聖地プロジェクト」始動

…いちごオブジェを新鹿沼駅、市役所に設置

…いちご神社を出会いの森いちご園に設置

…いちごの樹を市役所ロータリーに植樹 など

■ 鹿沼市の「移住・定住」対策とは …

- ◎ 昭和23年に旧鹿沼町が単独で市制施行し、その後、昭和29・30年に9村と合併した鹿沼市は、昭和25年時点では、市域全体で8万2千人の人口を擁していましたが、高度経済成長期を経て平成13年には9万4千人まで増加しました。これをピークに人口減少が始まり、平成18年には栗野町と合併して10万3千人となりましたが、令和元年には9万6千人、令和7年には9万人を割り込んでいます。
- ◎ 鹿沼市は、県都宇都宮市に隣接し、市内にはJRと東武の交通機関、高速道路網等が充実、首都圏にも容易に移動できるため、進学時や就職、結婚など人生の節目節目で転出していくケースが多く見られます。また、こうした現象は、首都圏を除く多くの自治体において共通の課題となっています。
- ◎ 一方で、令和2年以降世界的猛威を振るった新型コロナウイルスにより、地方への移住・定住の流れは顕著になっており、本市においても、それらの受け皿となるべく対策を進めてまいりました。
- ◎ 令和4年に策定した「第8次鹿沼市総合計画」では、「政策7 行政経営(たくましさ)～将来を見据えた持続可能なまちづくり～」の「シティプロモーション・移住定住の戦略的推進」における取り組み方針として、以下のとおり位置づけています。

■ 移住定住情報の発信と受入体制を強化します。

- 移住定住に役立つ情報の発信、相談窓口の確立、お試し移住体験施設の運用、移住定住支援制度の運用、官民連携による雇用移住定住促進体制の構築などの取組を推進することにより、移住定住を推進します。
- 地域社会へ貢献することに意欲と情熱を有する者が、地域おこし協力隊員として移住・定住し、積極的に活動を展開していくことができるよう支援を行います。
- 本市の魅力を市民に再認識してもらうなど、郷土愛の醸成を図ることで、転出抑制や転出者のUターンにつなげます。

◆◆◆ 現在鹿沼市が推進している主な事業メニュー ◆◆◆

移住・定住の促進	移住支援補助金、新卒就職祝金、地方就職学生支援金、移住体験おためしの家、おためし宿泊補助、モニタリングツアー
外部人材の登用	地域おこし協力隊、移住交流サロン

いちご市パワーアップ事業（「Made in 鹿沼」の推進）

■はじめに

- ・豊かな自然や伝統文化、産業など資源が豊富な本市は、それゆえにイメージが分散してしまう傾向にあった。
- ・そのため、本市を代表する農産物であり、誰からも愛される「いちご」を本市のメインイメージとし、「いちご市かめま」として全国への認知度を向上させる戦略をパワーアップさせ、いちごだけではない、いわゆる「Made in 鹿沼」の食、自然、産業などを、全国に売り出していくことを目的としている。
- ・「いちご市宣言」後、まもなく10周年を迎える中で、改めて「いちご市」の狙いを理解し、よりわかりやすくするために「Made in 鹿沼」を新たなキャッチコピーに加え、官民連携の取り組みを進めることで、さらなるパワーアップを図っていく。

※「■」市が既に取り組んでいる事業 「○」エコノミーティングでの意見

		内 容
いちご市 パワー アップ 事業	I 関係人口の増加	
	1. いちご・にら等の新規就農	
	(1)移住・定住促進	
	①いちご新規就農者研修	■H28年度募集、29年度から研修開始
	②家族まとめてパッケージ支援	○本人はもちろんのこと、家族がいる場合には家族それぞれの事情に応じて、スムーズな移住を促進 ・農政課を事務局とし、関連部局と調整
	(2)新規就農支援	
	①既存支援策+α	・支援策の充実を検討
	2. PR・イメージアップ	
	(1)商品開発	
	①農林商工連携によるいちご製品の商品化 ②「スイーツのまち」の展開	■ロージェ「グラノーラメレンゲ」、小林酒店「いちごヨーグルト酒」、カノヤ「いちご染糰」、宇賀神緑販「いちごワイン」等 ○いちご、なし、りんご等様々な農産物を活用し、各店がそれぞれ新たなスイーツを開発、あるいは既存スイーツの充実を図り、一斉にPR。市はPR部分を担う ※6次化での支援もあり
	③関連商品・グッズの開発	○文星芸術大学、市内高校等とのコラボにより、いちご関連グッズや本市にまつわる新キャラクター製品を開発。参加意欲のある企業、参加希望者を募り、学生とのマッチング ○ドレッシングなど、食品、メニューの開発・提供
	(2)販売力の強化	■観光いちご園(出会いの森、ベリーちゃんハウス、わたなべいちご園、ベリーズファン)

		内 容
いちご市パワーアップ事業	I 関係人口の増加	
	2. PR・イメージアップ	
	(3)市のピーアール	■SNS発信、「いちごのもり開催」(H30年2月～)、いちご市かめまサポーターズ認定(H30年)、巨大いちごモニュメント設置(新鹿沼駅にR5年2月、市役所にR5年4月)、等
	(4)シビックプライドの醸成	■いちご市ロゴマークの制作(H28年)、いちごナンバープレートの制作(H30年)、等 ■市民等の取り組み(いちご屋台(H30年)、いちご神輿(H30年)、いちご焼き(H30年12月)、青春いちごまんじゅう(R元)等
	(5)公共施設・主要施設等でのいちごイメージ展開	・「ウェルカム・ベリー・シティー」いちごのオブジェ、マッピング等
		■巨大いちごモニュメント設置(新鹿沼駅にR5年2月、市役所にR5年4月)(再掲)
	(6)イベント等での活用	○いちご等をさつきマラソン等の記念品等に活用(生、加工品、グッズ等)
	(7)いちご街道の設定・整備	○南押原から南摩にかけて「いちご街道」をネーミング関連施設等も整備
	(8)新たなイメージ戦略	○新たなキャッチコピーの活用 「いちご市かめまへ…私をキャンプに連れてって」 「いちご市かめまへ…私をゴルフに連れてって」
		○「いちご市かめまの〇〇(パン屋とか、風景とか、観光名所とか)ベスト10」(何でもあり)等の活用
		PR戦略
	II 経済活動の強化	
	1. 販売力の強化	
	(1)販売所の確保	
	①市内で必ずいちごが買える場所の整備	○駅前等、いちごの購入場所、販売ルートの整備
	②いちご提供ルートの確保	・いちご新規就農に係る研修生が担当するハウスのいちごを駅前や観光施設等に供給
	(2)多彩な流通アプローチの構築	○本市の優れた木材の流通強化を図るため、「いちご市かめまの健康杉・ヒノキ材」等として情報発信 ・いちご市かめまのさつきの舞(米等)
	(3)販売手法の再構築	・販売力強化に繋がるストーリー作り(例:かめま和牛といちごとのコラボ)

みんなで進める「移住・定住」促進作戦

※「■」市が既に取り組んでいる事業 「○」エコノミーティングでの意見

		内 容
みんなで進める 移住・定住 促進作戦	1. プロローグ「鹿沼に興味を持ってもらおう」 (1) 鹿沼市(人・こと・モノ)のPR	
	① SNS等での発信	■ 鹿沼の情報発信⇒鹿沼ファンの獲得 ○ 市民一人一人がインフルエンサー ○ 人、自然、食等をアピール ○ 子育て支援策等のみならず、公園、図書館、美術館等の情報を発信 ○ 学習塾や学童など、子育て支援施設の充実を発信 ○ 移住者情報(生の声)の発信
	② イベント等を通じた「縁」づくり	○ さつきマラソン大会や秋まつり等のイベントへの参加をきっかけに鹿沼ファン⇒「イベント参加+α」を仕掛ける
	③ 「Made in 鹿沼」の展開 ④ 新生活への提案	○ 「“Made in 鹿沼”って何？」から興味を持ってもらう ○ 「鹿沼の○○地区なら、坪いくらで、この位の住宅で、総額いくらで家が建ち、こんな暮らしができますよ」というような具体的な提案を実施
	⑤ 新たな切り口による シティセールス	○ 日光や宇都宮市をシティセールスに活用 ⇒ 「宇都宮から15分」、「日光の手前」等 ○ 鹿沼型の特色を生かした教育の推進
	⑥ 食育の推進	○ 学校給食に自分たちが栽培した食材の活用を充実
	2. 鹿沼の魅力度アップ	
	(1) 官民連携のまちづくり	
	① 駅周辺のリノベーション	○ 宿泊施設や観光案内、物販の拠点を整備
	② 宿泊施設の充実	○ まちなかに宿泊施設を誘致
	③ 体験型のサービス展開	○ 体験型の野菜作りや、自分が育てた野菜や米が食べられるサービスを生み出し、ふるさと納税の商品に。実際に食する時は市内の飲食店が協力
	(2) 特色あるまちづくり	
	① まちなかにアートや音楽を	○ まちなかにアートや音楽を取り入れ、特色ある街づくりを推進
	② 遊びごころを込めた新たな キャッチコピーの展開	○ 「私をキャンプに連れてって・・・」「私をゴルフに連れてって・・・」等 一定期間、キャッチコピーによるPRを展開
	③ 特色ある文化の形成	■ 市民の主体的な活動と次世代への継承・担い手の育成
	(3) まちの成長力を拡大	
	① 新たな産業団地の整備	■ 次期産業団地整備を検討
	② スマートインターチェンジの整備	■ 道路網の整備を含め、スマートインターチェンジの整備を検討

		内 容
みんなで進める 移住・定住 促進作戦	3. 地域資源の活用	
	(1) 空き家の活用	■ 空き家バンク等を活用した空き家の利活用の推進 ○農地、空き家・空き店舗などを資源としてとらえ、移住・定住、新たなまちづくりの拠点として活用できる体制づくり ○「住居」を求める人に安価に提供できるシステムを検討 ○空き家を活用して古民家カフェ、宿泊施設に展開 ○空き校舎等を活用し大学や専門学校等の誘致
	(2) 空き校舎等の活用	○空き校舎等を活用し大学や専門学校等の誘致
	(3) シウマイの地域展開	○新規シウマイ店の出店促進・誘致
	(4) 「農」や自然を生かした都市間交流の推進	■ 都市間交流に農林業を取り入れた交流を促進
	(5) 新たな観光資源による観光戦略の再構築	■ 南摩ダムやキャンプ場を活用した西北部中心の観光戦略
	(6) 小中学校の適正配置の推進	■ 統廃合の推進における地域主体による新たな学校づくり ■ 特色ある学校づくり ■ 学校を核とした地域づくり
	4. 外部人材の活用	■ 地域おこし協力隊による活動
	5. 具体的な移住・定住対策	
	(1) 政策的手法	
	① 新規就農	○本人はもちろんのこと、家族がいる場合には家族それぞれの事情に応じて、スムーズな移住を促進
	② 情報発信・相談会の開催	■ HPやカヌバック(インスタマガジン)等の情報発信 ■ 移住相談会、移住交流サロン等の開催
	③ 移住おためし体験	■ 移住体験おためしの家、おためし宿泊補助、モニタリングツアー
	④ 補助金・支援金等による支援	■ 移住支援補助金、新卒就職祝金(R7～)、地方就職学生支援金(R7～)、奨学金返還支援(R7～)
	⑤ まちづくり戦略	○子育てしやすいまちの創造
	⑥ 多文化共生の推進	■ 外国人にもやさしいまちづくり
	⑦ パートナーシップ制度の適切な運用	■ 市民の理解の醸成
	⑧ 新規出店者への継続的なバックアップ	○新規出店者に継続的なバックアップを実施し、定着を促す
	⑨ 人材の確保による市内企業の継続的な発展を支援	■ 合同企業説明会の開催

■ 設置の目的と実施方法について

1 設置の目的

産業界、金融界、行政が連携し、それぞれが本市の経済成長や産業振興、鹿沼をもっといいまちにするためのアイデアや意見を出し合い、協働・共創によるまちづくりを推進することを目的とする。

2 エコノミーティングの位置付け

- ・産業界、金融界、行政が並列の立場で、それぞれの視点から、各回のミーティングテーマに対してのアイデアや意見を出し合う場とする。
- ・次の団体等を基本のメンバーとし、さらに必要があれば、ミーティングテーマに応じて関係する団体等からエコノミーティングに参加いただき、議論を深める。
- ・議論された内容や意見、アイデア等について、各団体等の取り組みに何か反映できないか検討する。

3 実施方法について

- ・各回のミーティングテーマや参加団体等は、事前の会議で話し合い、決定しておく。
- ・各団体等に、出席者について報告を依頼する。
- ・各団体等は、ミーティングテーマに沿った意見やアイデアなどについて準備する。
- ・当日、出席者にミーティングテーマに沿った各団体等の意見やアイデアについて発言してもらい、また、それらの発言について意見の交換を行う。
- ・エコノミーティングのファシリテーター(進行役)は、鹿沼ケーブルテレビに依頼する。
- ・ミーティングについては、自由な意見交換を確保するため非公開とするが、話し合った内容等は市ホームページなどで公表する。
- ・ミーティング終了時に、次回のテーマ等について決定する。
- ・令和7年度は、3回の開催を検討する。

■ かぬまエコノミーティング

産業界	金融界	行政
・ 鹿沼商工会議所 ・ 栗野商工会 ・ 上都賀農業協同組合 ・ 鹿沼市森林組合 ・ 栗野森林組合	・ 鹿沼相互信用金庫本部 ・ 足利銀行鹿沼支店 ・ 栃木銀行鹿沼支店	・ 市長 ・ 副市長

鹿沼市産業経済未来創造懇談会設置要綱

(設置)

第1条 産業界、金融界、行政が連携し、本市の産業・経済の振興に向けた意見を出し合い、協働・共創によるまちづくりを推進するため、「鹿沼市産業経済未来創造懇談会」(以下「かぬまエコノミーティング」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 かぬまエコノミーティングの所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 本市の産業・経済振興に関する事項
- (2) その他本市のまちづくりに関する事項

(構成)

第3条 かぬまエコノミーティングは、次に掲げる団体等(以下「団体等」という。)から選出された者をもって構成する。

- (1) 鹿沼商工会議所
- (2) 栗野商工会
- (3) 上都賀農業協同組合
- (4) 鹿沼市森林組合
- (5) 栗野森林組合
- (6) 市内金融機関
- (7) 鹿沼市

2 市長は、必要があると認めるときは、団体等以外から選出された者をかぬまエコノミーティングに出席させることができる。

(会議)

第4条 かぬまエコノミーティングは、市長が招集する。

2 かぬまエコノミーティングの進行は、市長が指名した者が務める。

(事務局)

第5条 かぬまエコノミーティングの事務局は、経済部に置く。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、かぬまエコノミーティングの運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

参考：かぬまってどんなところ？（鹿沼自慢の一例）

- 🍷 面積は490.64km²（県内3位）、うち7割が森林で、森林資源が豊富。
- 🍷 7本（大芦川、荒井川、南摩川、粟野川、思川、永野川、黒川）の清流が流れ、まちなかで鮎も釣れる。
- 🍷 農林商工・サービス業等のバランスがよく、不景気にも強いまち。（昔から食えなくなったら鹿沼に行け…。と言われていたらしい）
- 🍷 木工業、機械金属、精密機械等は世界進出をはたしている。
- 🍷 宇都宮市に隣接し、2本の鉄道（JR・東武）も通り、有力な移住・定住の候補地。
- 🍷 いちごやにら等、鹿沼でできない農産物はない？と言われてきた中で、近年では“いちご市”として売り出し中。
- 🍷 麻、鹿沼土は本市の特産物。
- 🍷 民俗文化も世界に誇れる実力。鹿沼秋まつり（国重文：ユネスコ無形文化遺産登録）、発光路強飯式（国重文）、生子神社泣き相撲（国選文）…、高村光雲の「老猿」のふるさと、松尾芭蕉の足跡も残っている。
- 🍷 まちの駅設置数日本一（96か所）ということで、「おもてなしのまち」「アウトドアのまち」としても、次の展開を狙っているところ …
などなど